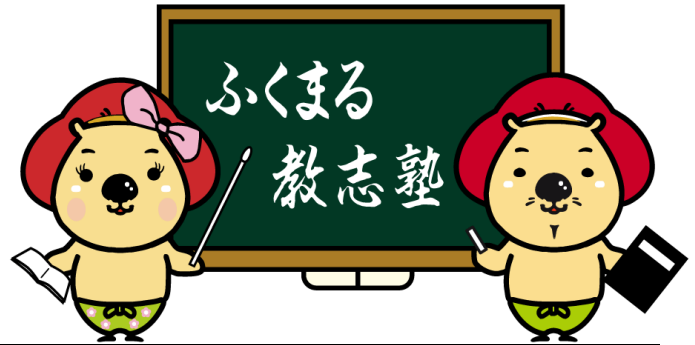


第8回 ふくまる夢たまごセミナー



日 時 11月11日(金) 18:00~20:00

場 所 池田市庁舎 7階大会議室

内 容 「幼児期の子どもの成長と発達」

講師 瀧川 光治 氏 (大阪総合保育大学 教授)



第8回ふくまる夢たまごセミナーは、大阪総合保育大学の瀧川光治教授をお招きし、「幼児期の子どもの成長と発達」について、～幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿と、児童期への学びのつながり～という視点からご講演いただきました。

はじめに、瀧川先生から小・中学校教員をめざす塾生に、「皆さんは、小学校入学前の『2歳児』～『年長児』には、どんなイメージがありますか。」という問いが投げかけられました。続けて、「動画から考えてみましょう」という提示があり、園児の遊びの様子を映した動画の視聴後に再び、先生から「幼児は遊びを通して何を学んでいるのか」、「2歳児くらいから、何が(どのようなことが)育ってきているのか」、「幼児は『主体的・意欲的活動をしている』と言えるだろうか」、「あえて『小学校の教育』に当てはめると、どんな『教科』に該当しそうか」と問いかけられました。



塾生たちは、グループで話し合いを重ね、それぞれの考えを共有していききました。

先生からは、右のように『動画からいえること』についてまとめていただきました。多くの塾生にとっては、初めて、幼児教育について学ぶ貴重な時間となったようです。



保育現場の動画からいえること

1. 幼児期の子どもは、もともと主体的な存在。
2. 幼児期の教育は、「経験学習」(体験・経験から学ぶ)。
3. 楽しさや“もっとこうしたい”という子どもの思いから始まる。
4. 幼児期に育むことが大切なのは、単なる知識や何かができることではなく、「こうしたい」「こうしてみよう」「これはどうかな?」という好奇心・探求心、創造的な思考力。それを支えているのが、楽しさ・面白さなどの「楽しい」「面白い」「この遊び大好き」という情動面や感性。さらに、いろいろなことをやってみたくするための自信・自己肯定感の育ちが重要。
5. 幼児期のいろいろな遊びや体験していることの中に、小学校の教科学習の「学習内容の芽生え」となるものが含まれている。
6. 小学校では、1～5のことを踏まえて、どのように1年生入学当初の教育や低学年教育の改革を行うかが、学力向上のカギになる。

<塾生の感想から>

○ 幼児教育がこんなにも子どもたちの主体性をもとに行われているものだとは知らず、新しい発見になりました。



○ 幼児期の遊びによる学びは、小・中・高の教科教育に繋がっていることがわかり、幼児教育の重要性を感じ、幼児期の学びを小学校へ、小学校での学びを中学校へ、中学校での学びを高校へつなげることがとても大切であると感じました。

○ 幼児期には、遊びの中から学びを得ることが大切な事、その為には、子どもの興味・関心を日常での関わりの中で教員が見つけ、必要に応じた声かけが大事なことを学びました。